

学校給食に有機農産物の導入を働きかける生産者グループや市民団体は10月26日、東京都中野区で「全国オーガニック給食フォーラムを開催しました。

先進的な取り組みをしている千葉県いすみ市の太田洋市長をはじめ、オンラインを含め40余りの市町村の首長らが参加しました。フランスや韓国など海外も含め、それぞれの取り組み事例を共有。約4000人(実出席1000人)が参加し、学校給食を有機農産物に切り替える運動を転換していく「オーガニック宣言」を採択しました。

子どもたちに地域の安全な有機農産物を 全国オーガニック給食フォーラム



全国の水田2%で100%有機米給食に

●全国の小中学生950万人、米飯1食100g、年間150回実施で概算すると
 $950\text{万人} \times 0.1\text{kg} \times 150\text{回} = 142,500\text{t}$ (精米)

これを玄米に直すと(精米歩合90%)

$142,500\text{t} \div 90 \times 100 = 158,333\text{t}$

●このお米を生産するのに必要な有機の水田面積は?

10a当たり6俵として計算

$158,333\text{t} \div 3.6\text{t} = 43,981\text{ha} \Rightarrow 44,000\text{ha}$

日本の水田面積2,366,000ha

$44,000\text{ha} \div 2,366,000\text{ha} = 0.0186 \times 100 = 1.9\% \Rightarrow$ 約2%

JA常陸の有機実践報告(秋山豊組合長)
JAの取り組みでは、茨城県のJA常陸が、子会社の「アグリサポート」で有機野菜の栽培を始め、市内の小中学校にジャガイモを提供している。タマネギもダイコンも作り、有機認証も取得して、学校給食への供給を9割まで拡大したいと考えている。同JAの秋山豊組合長は「昭和30年代まで、日本はほとんど有機農業だった。これ以上自然環境を壊すと国民に必要な食料供給もできなくなる」と、有機農業の必要性を訴えた。

いすみ市学校給食全量有機米の取り組み
(千葉県いすみ市 農林課主査 鮎田晋)
豊岡市という優れたお手本にとことん学ぶ。大きな成功につながる第一歩に「小さな成功」があつたはず。コウノトリ育む農法を確立した普及指導員の方と稻葉光圀先生、はじめに取り組んだ農家の成功が重要であると確信。キーパーソンが仕事をすれば、いすみ市でも同じようなことが起こせるはず。同時にほどほどの仕事では絶対できないと覚悟した。
やれない理由を探し始めると前に進めない。誰もやらないのであれば、自分がやるしかない。誰が見ても分かるような実績を作らないと、いつまでたっても何も変わらなかつた。
ために全国に仲間たちと力を合わせていくことを認められました。

安達地方農民連、怒りの軽トラパレード



参加者の感想

- 稻刈り真っ只中の10月12日、安達地方農民連は10回目となる「コメ作って飯くえねえ!怒りの軽トラパレード」を行いました。
- 10月13日告示、30日投開票で福島県知事選挙が行われるということもあり、佐藤佐市会長は「心から豊作を喜べない、米作って飯くえねえ状況が続いている。私たち農民連はこんなに大変な時でも物づくりと運動を拡充してほしい。
- ミサイルが飛んでくることに不安を感じる。食糧確保の問題も切実になってきた。
- 農民連のこういった活動が自主的でとても良いと思っている。

稻刈り真っ只中の10月12日、安達地方農民連は10回目となる「コメ作って飯くえねえ!怒りの軽トラパレード」を行いました。10月13日告示、30日投開票で福島県知事選挙が行われるということもあり、佐藤佐市会長は「心から豊作を喜べない、米作って飯くえねえ状況が続いている。私たち農民連はこんなに大変な時でも物づくりと運動を拡充してほしい。ミサイルが飛んでくることに不安を感じる。食糧確保の問題も切実になってきた。



農民連フラッシュflash

ウクライナに連帯・9条田んぼ

今年の9条田んぼは「ブーチンは侵略ヤメヨ ウクライナに平和と自由を」と植え付けされました。ロシアの蛮行を許さず、ウクライナの平和を祈る連帯を込めました。



県北女性部「相馬ツアーア」を開催

10月11日、浜通りの現状を聞く「相馬ツアーア」を行いました。浜通り農民連の三浦広志様から地域復活に向けて活動されているお話をうかがい、前向きに行動する姿にエネルギーを注入されました。その後、晴風荘で食事やお風呂を楽しみ、コロナ禍で一年ぶりとなった再開を喜ぶことができました。



太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

- 福島市
- 約2000~3000m²の遊休地
- 日当たりがよい
- 宅地、雑種地、林地、原野、農地などの地目の土地

ご連絡いただければ、現地を確認させていただきます。



【連絡先】

福島農民連産直農業協同組合 担当:佐々木健洋
Tel 024-546-7229 fax 024-546-8804
メールアドレス:stake@vmail.plala.or.jp